

# 住

## 家の中を安全に

1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災では80%以上は建物の倒壊等によるもので、ケガをした方の半数近くは家具の転倒によるものと言われています。

充実した避難リュックを用意しても、それを活用することなく家の中で亡くなってしまいうケースもあるのです。

まずは命を守ること。

つまり、家具の転倒を事前に防ぐことなどが要になってきます。また「地震」の時に、モノに溢れたリビングはモノが飛び散り凶器へと変わることを覚えておきましょう。

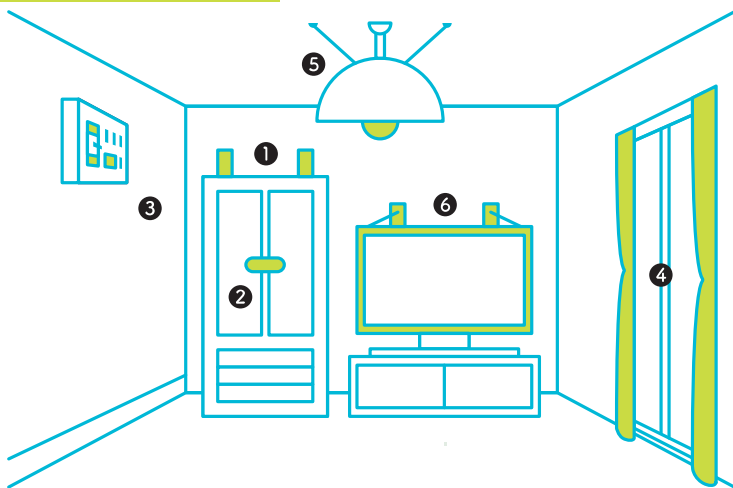
### ワークショップのポイント

- ・家の中で命を落とす危険性があることを知る
- ・どんな危険性があるか、またそれを回避する方法を知る

### ワークショップのやりかた

- ・クイズ形式(回答式・○×式など)

### 家の中の安全を確保するポイント



- ① 背の高い置き家具にはつっぱり式等の固定具で固定。  
・または壁面に器具で固定。  
・家具の前面に耐震ジェルマットなどはさみ込んで、やや後傾させるのも有効。
- ② 食器棚等のガラス扉には飛散防止シートを張っておく。  
・棚に入っているものが動かないように滑り止めシートを敷く。  
・キャビネットの開き扉にロックやストッパーをつける。  
(造り付け家具やクローゼット、押し入れ収納も同様)
- ③ 分電盤に感震ブレーカーをつける
- ④ 窓ガラスには飛散防止シートを張っておく。  
・カーテンを床までの長さにする、窓ガラスが割れた時の飛散防止にもなる。
- ⑤ 吊り照明は固定する。
- ⑥ テレビを固定する。(可動式家具のキャスターはロックしておく)

寝室は、特に無防備な状態なので、できるだけ物を置かず家具は低めのものにする。

### 家の中の整理整頓はメリットがいっぱい

「すぐに必要なモノを取り出せること」が、いざという時にも役立ちます。

そのためにも不要なものはできるだけ増やさない。まとめたらわかるようにしておくことがポイントです。

「ある(用意している)」と思っていても、それは本当に使えるモノなのか？  
避難袋の中身は、今現在の自分や家族に合ったモノか？

特にこどものいる家庭では、成長に合わせた日用品や服の備蓄を。

用意したモノの場所は自分だけでなく、家族みんなが見つけられるようにする。

モノのリストアップと置き場所マップやラベリングがオススメ

食材備蓄の整理収納も要チェック

家庭内の日用品の「備蓄」であれば管理しやすい=目にしやすい場所がオススメです。

ローリングストック(回転備蓄)方式

紙などの消耗品類や食品・飲料類は、日常での必要数に少し増やすだけ。(無駄をなくす)

- 備蓄している服類や食品を入替えるのは衣替えのときに兼ねると良い。
- マンションであれば、玄関への避難路となる廊下にモノを置くのは禁物。
- 一か所にまとめると管理しやすいですが、地震で部屋に閉じ込められたことを想定すると、各室に飲料・食品・簡易トイレを備蓄すると安心です。

### 台風対策 ベランダを安全にしましょう。

台風が通過する際に「飛来物や強風でガラスが割れないか？」は大きな不安材料です。

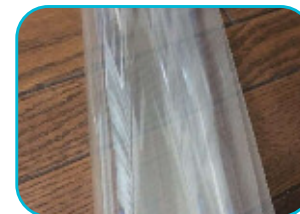
ベランダにある植木や道具類は家の中に移動します。自分の家だけでなく近隣に対して飛来する恐れもあります。

物干し竿は下に置き、エアコンの室外機は倒れる心配があるならロープで固定すると良いでしょう。また窓ガラスを飛散防止フィルムで保護をすることでガラスが割れた際の飛散防止になります。

排水溝を掃除することで部屋への漏水予防にもつながります。



排水溝は常日頃から枯れ葉などを掃除しておきましょう。



普段から飛散防止フィルムを貼っておくと安心です。



植木やスリッパなど飛散する可能性のあるものは可能な限り部屋の中に移動しましょう。